

Title	クラーク教授の資本の機能に就て
Sub Title	
Author	金原, 賢之助
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1921
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.15, No.6 (1921. 6) ,p.895(135)- 905(145)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19210601-0135

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

さうして彼は保険に加入した當座は後に於けるよりも費用僅少であるために積立をするのは prospective formulas 或ひは retrospective formulas といふ根本義に従ふのではない。何となれば未來の保険料の不足を補ふの必要もなければ、過去の保険料から積立を行ふてゐたためでもないのであると云ふことを發見した。

この意見は第一に獨逸に行れ、次いで徐々に大陸方面に受け容れられるやうになつた。英國に行れたのは八十年代であり、米國に行れたのは九十年代のことである。この説は Dr. Sprague 及び Emory McClintock によつて擁護せられた。然しながら只全生命平均保険料保険のみに適用せられたのである。

一九〇三年には Emory McClintock, Henry Moir 及び Miles M. Dawson の三氏が共同して積立に關する公式を作り出した。これは "select

and ultimate" として知られて諸方の協會や雜誌に於いて論議を経て、Armstrong Committee では最小積立額の標準を定め新事業費として使用する額の限度を設ける基礎として採用せられるやうになつた。

最近二十年來 actuarial science を疾病及び老廢保險問題に適用することが著しく發達を遂げた。就中 Zurich の Herr G. Schaeblin, Copenhagen の Westergaard 教授及び米國の Actuarial Society の秘書の Arthur Hunter 如きはこの方面の殊勳者である。

更らに死亡表の等級分けに就いて新方法が英國の George King によつて一九〇九年公にせられた。これは King の Census Method と稱せられてゐるものであつて Census の結果を利用しやうとするものである。

(大正十年五月二十日)

クラーク教授の資本の機能に就て

金原賢之助

J. B. Clark は彼の資本の概念を説明するに當りて之を瀑布に擬し、其水は不斷に動きて變れども其水より成る瀑布其ものは其の在る所に依然として在り。彼の稱して資本と爲す所のものは即瀑布其ものなり。常に不變のまゝに永續するものにして彼は之に true capital (最始は pure capital) なる名稱を與へたり。而して瀑布を成す所の水の微片は彼の所謂資本財 (capital-goods) として true capital を具體化したるもの

なり。従つて水の微片の如く直ちに消え去るものなり。

然らば true capital とは如何なるものなりやと云ふに「現に貨幣に表はし得れども貨幣其ものに具體化されざる生産的富の永續的元本」なりとなせり。而して彼の見解に従へば資本財は生産期間 (periods of production) を有すれども資本は生産期間を劃するを得ず。加之資本は其生産期間を消滅せしむるの機能を有するものなり。此は Jevons の爲したる説明と正反對のものにして彼は資本を以て労働と其効果との間に期間を介在せしむるものなりと稱せり。されど其は資本財の爲す所なり。眞の資本は結果に於て資本財によりて作らるゝ之等の期間を無くするものなり。「其は總ての待つと云ふことを廢するの手段なり。其は時の間隙を除去するものにして労働と其効果とを絶體的に同時に發生せしむる

ものなり。其範圍と錯雜の點よりして一方の見地より見れば限りなく待つと云ふことを意味するが如く思はるゝ所の手段其ものは、他の見地より見れば待つと云ふことを全然意味せず。而も行ふ所の勞働の各々の最後の効果を直ちに出現せしむるものなり。」(Distribution of Wealth, p. 311)「此同時に發生せしむと云ふこと即此各種の勞働の時と其實上の生産物の完全なる成熟とを同時に齎らすと云ふことは吾人が資本財と區別して資本と稱する所のもの、機能なり。」(Ibid. p. 312)

今少しく彼の例に依りて其理を窺はん「皮革及機械の使用に附屬せる條件あるが故に、今一足の靴を作り始むる人は其一足の靴を穿き得る迄には或期間待たざる可らず。然るに彼は直ちに一足を持つことを得るなり。何となれば多數の靴は完成に至る迄の各種の階段に存すれば

なり。而して彼が得る所の靴は彼自身の勞働の事實上の結果なり。社會的資本の永續的元本があるが爲社會は其靴及其他のものを其働くに從ひて日々得るなり。即成長する家畜獸皮鞣皮半製靴及完成靴が維持せらるゝ以上牧畜經營者鞣皮製造者及靴製造人は總て今日の仕事の結果として完成したる靴を今日取得し得るなり。吾人は今日働きて今日食す。eating は勞働の結果なり。二者が同時に起ることは fund たる true capital の存在する結果なり。」(The Yale Review Vol. II pp. 309-10; The Quarterly Journal of Economics, Vol. IX pp. 268-9; Distribution of Wealth, p. 315 参照)。

「貯水池に流入する水滴は機械的生産の期間を有す。彼等が車の運轉を始むるには時を要す。然れども水力は其ものとして斯る期間を有せず。今入口より貯水池の最上部に入る水は渦

に多少の煩を厭はず更に概括的に觀察せんと欲す。

第一日 A A' A'' A'''

第二日 A A' A'' A''' (前日の A''' は總ての生産者の利用の爲に取り去らる)

旋水車に達する迄に二週間を要するやも知れざれども貯水池は充滿せることが前提さるゝならば其流入は直ちに運轉を起すものなり。水滴は個々別々に觀察すれば生産の期間を有すれども貯水池其ものは斯る期間を有せざるなり。今池の一端に流入する水は他端に流出を生せしめ而して其流出は車を回轉せしむるなり。個々の水滴の同一性及其各々が池を通過するに要する時間を眼中に置かざれば流入は直ちに流出を惹起し其流出は車を回轉せしむ。水の充てる貯水池の形式の資本は、其を構成する水滴は實際常に變化しつゝあれども、入口よりの流入と車の回轉とを同時に發生せしむるなり。」(Yale Review Vol. II p. 310; Distribution pp. 312-3)

吾人は靴の製造及水車の運轉と云ふ特殊の場合に就て彼の資本の機能に關する見解を聞きたるが更に彼の立論を平易に確實ならしめんが爲

意味するなり。若し吾人が此元本の永續を問題

fund of true capital の存在すと言ふことなり。其は又 A A' A'' A''' は總ての時に於て彼等の現在存在する數量丈は十分に存せざる可らざることを意味するなり。

の一條件として認むるならば、生産物を完成するに至る間の如何なる點に於て爲したる勞働も十分完成したる生産物を其事實上の結果として直ちに産出すと云ふことが起るなり。Aを作る

と云ふことは云は、其線の他の端に於ける流出を生せしめ而してA'の供給を工場より發せしめて以て其流出を生ずるの行爲を爲したる人に歸せしむるに至るなり。Aを作ることは昨日のAをしてA'たらしめA'をしてA''たらしめA''をしてA'''たらしめ而して昨日のA'''をして消費者の所有に迄進ましむるものなり。完成したる財が工場より現はれたる時其は普通の状態の下に於ては其系統に屬する總ての人の間に公平に分散さるべし。最下層の團體に在る一勞働者は彼が今働きたつゝある其特別の材料より造られたる完成物を今日は得ざるべし。然れども彼は他の材料より作られたるものなりとは雖も彼の現在の仕事

に歸因す可き生産物を得可し。且又彼は資本財の一般的蓄積より造らるゝ財を得べし。其資本財の蓄積に對して彼及他の人々が共同して勞働を加へつゝあるなり。

此は組織的產業界の状態なり。世界の總ての農場鐵道製粉場及工場等は今正に述べし所を大規模に行ひつゝあるなり。各々の完成財は其後に其れと同種の未完成財の連續を有し其が一が使用の爲に取り去らるれば他のものは之を補ふ。外套が小賣商より買はるれば他のものは仕事場より來りて之に代る。布は仕事場に羊毛は工場に其れ々々行く。羊は西部地方にて生長し其れを被へる毛はのびて剪取人の手に渡る。麵麩は今晩用ふる爲に麵麩焼場より來り他のものが其れに代る。粉は製粉所より來り小麥は荷揚人より而して結局は土壤より生ず。

資本主義的生產の行はるゝ以上先づ第一に考

察されざるべからざるは資本の總元本にして其一時的に構成部分たる各種の財ならざることは十分理由あることなり。貸銀及利子の支拂は資本の組織を消費するものなるが其消費は總て資本の構成部分たる財の移動する連續の一端に於て起るなり。其系統に於ける總ての勞働と、財が一點より一點に移動すると云ふこととは、消費を正に其起りたる點に於て回復するの結果を持つなり。其窮極の結果は完成されたる財は消費の爲に倉庫より取出され而して同じ財が直ちに倉庫に庫入さると云ふことなり。而して未成財の蓄積は全く其が始め在りしが如く繼續するなり。(Distribution pp. 315-7; Yale Review, Vol. II pp. 310-312; Quar. Jour. of Eco., p. 268 參照)

資本は總ての勤勞と其效果とを同時に發生せ

II

しむるの力を有すと云ふ思想を以てClarkの資本表現の形式の不適當なることより迷ひ込むに至れる明確なる誤謬なりとなす者は Böhm-Bawerk 其人なり。「一八九四年に於て、一八九五年に一足の靴が製せらるべき所の皮革を鞣めす勞働者は、一八九四年に於ては彼の半製品即鞣皮との直接交換に於て出來合ひの一足の靴を得るなり。一八九四年の社會には、一八九四年に於て一足の完成したる靴を作るべき所の且一層進歩したる生産階段に在る具體的資本財の別の蓄積が、持ち合はされて若しあるならば又あるが故に勞働者は一足の靴を得るなり。上記の交換をば可能ならしめんが爲には一定種類の具體的資本財が持ち合はせられざる可らず。Clark 教授の所謂 permanent fund は常に其れ丈の大きさはあるべけんも、併し靴に仕上げらるゝを得る所の具體的資本財を何等含まざるものなら

ば、明かに皮の調製人は一足の出来合の靴を直ちに得ること能はずして彼の作りし鞣皮より造らるゝ靴の將に來る迄待たざる可らず。」従つて Clark の思想は Böhm-Bawerk に従へば次の二點に於て眞理を逸するなり。

(イ)「生産期間は全く失くさるゝものにあらず而も折々極めて痛切に感せしめらるゝなり」。

(ロ)「人が貨物——其生産期間は早く始りし爲に、交換に於て與へらるゝ未完成財の生産期間よりもより迅速に終るに至る所の貨物——を直ちに供給されると云ふ事實は何等神秘的の永續的元本の存在の結果にあらずして而も一層早く期間の終る所の其れ等の具體的資本財の存在すと云ふ仕合はせなる結果なり。」(Quar. Jour. of Eco., Vol. IX pp. 124-5)

資本には斯る機能ありや否やは姑く措き Clark の斷定に於て最も注意を要する點は彼が常

るならば其れに乗つて流れを渡り得る迄には或時間を要すべし。(Distribution of Wealth, p. 308) 又「道具なくして働くと云ふことは物理的には可能なれども事實上不可能なり。最始に作らるゝ道具は勞働を其效果より分離せしむ。即人々をして其欲する所のものを得る爲に待たしむ。而して各増加する道具は一層待つと云ふことを意味するなり。資本財は勞働の效果を得る爲に待つと云ふことを含むものなり。」(Ibid. pp. 31-32) 然れども完成に至る迄の各階段に於ける一連續の財が一度設けられし後は資本の正常の活動が表現せらる。其後は待つ必要は無くなるなり。従つて始めは或期間待つと云ふことが必要なりと雖其後は待つことなくして結果の得らるゝものなる以上其待つと云ふことは何等重要なることにあらずと云ふ。例へば A/A/A/A が原料より完成品に至る迄の各種の財を示すもの

に「若しも十分なる資本が一度造らるゝならば」或は「新資本の創らるゝものなき以上」云々と云ふ一の前提を置けることなり。即彼は靜的狀態に於ては資本は其期間を有せざれども動的狀態即右の如き場合に於て財が消費の爲に用意せらるゝ迄には或時間を必要とす。而して此時間の間は所有者は彼等の期待したる生産物の爲に待たざるべからずと説くなり「斯る資本の存せざる場合には勞働と時間とは生産の絶體的要素なり。若しも自然界の存在と人類の慾望及力の存在が假定さるゝならば人は富を創造する爲に働き且待たざるべからず。言葉の自然の意味に於て生産の普遍的要素は努力 (Effort) なり。然れども努力のみによりて來る生産は或時間を含むことは確かなり。其は生産的行動の始めを其期間によりて其生産の最始の效果の享樂より區劃す。若しも人が筏を作る爲に材木を集めつゝあ

と假定するに二日目の終りには新しき A は作られ前日の A は A' に A' は A'' に A'' は A''' となる。而して前日の A' は總ての人の慾望を満足する爲めに利用せらる。其は總ての人の勤勞によりて生ずるものにして各人は何等待つとなくて其れ々々の部分を獲得するなり。右の如く論じ來れば勤勞が含む所の time sacrifice なるものは實際上の事實として總て最始の連續たる A/A/A/A の財を創造することに集中せらる。更に勤勞を行ふに際しては其特殊の財の完成を待つことは不必要なり。従つて斯る財によりて表はされたる期間は此特別の關係に於て重要にあらず。(Quar. Jour. of Eco., Vol. IX p. 269) 而して十分なる資本が一度存在するに至らば資本財の完成する期間は長くとも短くとも生産上の犠牲には何等の影響を及ぼさざるを以て其は敢て重要視するに足らずと主張するなり。

斯くて Clark の資本をして其機能を發動せしめんが爲には一定の條件を具備せざる可らず。即ち(1) 進歩の各段階に於ける一連續の消費財(2) 其連續の各點に於ける労働者及道具(3) 同時の労働」を必要とするものにして「此組織より消費者の財は生じ而も生産者の財の供給は決して絶えず。人は資本財の蓄積を失はずに保持し而して變移する資本財の永久的蓄積即眞の資本は人々をして待つことなからしむるものなり。」(Distribution, pp. 317-8) 云々と彼は結論せり。

Clark の設けたる此例外は Böhm-Bawerk 自身の意見によれば彼の爲さざる可らざる讓歩の一にして斯る重要な例外と言はんよりは寧ろ一般に適用せらるゝものなるべく其を設けざる可らざるは即彼の全斷定を覆へす所以なりと稱せり「Clark 教授の斷言するが如く *True*

Capital が生産期間を消滅せしむる力を有するならば其が普通の保守的の事件の状態に於てのみ此特殊の力を表はし動的經濟に於ては之を表はさざるは何故なりや」 Böhm-Bawerk は言ふ「其例外は Clark 教授が適用すると云ふよりも更に一層廣く適用さるゝものなることに注意すべし。何となれば其は新しく開始せられたる産業に適用さるのみならず、從來よりの産業にも亦適用さるゝものなればなり。即ち生産物の額が増加せらるゝ場合一例へば増加する需要に應ずる場合には何時にても從來よりの産業にも適用せらるゝなり。例へば或貨物の生産額が過去に於て一年三千個に上り而して其額を一年四千個に増加せんとする場合には吾人が直接に處分し得るは三千個のみなることは明かなり。而して増加分の一千個に對しては吾人は一千個の全生産期間の経過し了る迄一機械の状態の決定す

るに従ひて長かれ短かれ其期間の終る迄一待たざる可らざるなり。即ち Clark 教授の *true capital* は動的状態の下に於ても靜的状态の下に於ても其れに歸せられたる長所を表はさざる神秘的概念たるなり。然らば之を水なき地上に於てのみ溺死せんとするを救助する所の護符と同じ範疇に置かんとするは不當なりや」(Quar. Jour. of Eco., Vol. IX p. 1268) 云々

三

Clark は其斷定を強調せんが爲に労働者が彼自身の粗製なる仲介財に對する交換に於て得る所の完成したる貨物は彼の労働の眞の且直接の成果 (a true and immediate fruit) なりと論せり「資本財は労働と其労働の加へらるゝ原料の一部分の完成との間の時間に存し資本は労働と其眞且直接の成果との間の因果の關係に存す。其は A に今加ふる労働が A をして直ちに工場よ

り現はれしむる所以なり。」(Yale Review, Vol. II p. 312) と主張せり。

然れども彼の主張するが如く今日獲得する所の財は今日の労働より直接に生ずる眞の結果なりと斷じて誤り無きや否や。其も亦 Böhm-Bawerk の言を借りて言へば「Clark 教授が危く眞理より最も離れたる」斷定なり。「彼の労働の眞且直接の結果は彼が鞣めしたる皮革にして其他のものにあらず。完成したる靴は他の労働者が尙ほ他の者によりて造られたる皮革より作り出したるものにして不知の労働の成果なり。而して原料の生産者によりて彼自身の眞の生産物との交換に於てのみ直接に得らるゝものなり。」(Quar. Jour. of Eco., Vol. IX p. 125) 云 Böhm-Bawerk は論駁せり。

Clark も亦彼の主張が實際の事情と符合せざるを無視するを得ざるを以て文字通りに眞なる

こと、事實上眞なることを區別し、文字通にはあらざるも事實上今日得る完成品は今日の勞働の結果なりと説くに至れり。吾人が前に掲げし諸例に於ても「事實上の結果として」なる句の散見せらるべく又「今日勞働を加ふる原料其ものに固執せざれば今日の勞働の事實上の結果として」云々の説明を以て吾人が實際に於て或一物を消費するか或は其れと全く同一の他の物を消費するかは何等重要に非ざる所以を明かならしめんとせり。若しも社會の欲するものが現在高地を放浪せる羊の脊に今日存する羊毛より或時期に於て作らるゝ其特別の外套なりとせば社會は其れを得る爲に待たざる可らざる可し。之に反して社會が其特別の羊毛より作られし外套を固執せずして或同種の羊毛より作られし外套を欲するならば社會は其れを今日而して亦今日の勞働の結果として取得するを得可し。且又現在

の蓄積より取り出したる羊毛にて作りたる外套を得ることは其れに代る爲に他の羊毛を産出しつゝある人の共力によるなり。原料の特殊の部分及其れより結局成熟する完成物に關しては待つことは確かに必要なり。斯る財の自ら永存する蓄積に關しては、充滿せる管の一端に水を吸入するに際して其同一の水が他端より流出する迄水を飲用することなくして待つこと必要ならざるが如く、亦待つ必要は何等存せざるなり」(Quar. Jour. of Eco., Vol. XXI p. 366-9)云々と。以て物の同一性を棄てると云ふことは今日の勞働がそれ〳〵の日の結果を獲得する所以なることを教へたり。

依是觀之、彼自身と雖Aなる原料より製出せらるゝA'なる完成財を得んとするならば一定期間待つを要することを明かに認めたるものにして之迄も否定せんとするにあらず。唯A'A'A'〳〳〳

なる一定の連續の財が存し且常に相繼續して補充せらるゝ以上新たなAは作られA'A'A'がそれ〳〳〳A'A'A'〳〳〳となるに従ひてA'は消費財として社會に表はるゝを以て之等の勞働に従事する者は直ちに其結果を得ることとなりて勞働と其效果とは同時に發生すと云ふなり。従つて彼は待つこと云ふことゝ物の同一性と云ふことに別段の重きを置かざるなり。然るに Böhm-Bawerk は此點に特に重きを置けるを以て Clark が「若しも社會が特別の羊毛より作られたる外套を固執せずして或同種の羊毛の外套を欲するならば社會は今日の勞働の結果として今日其れを得るなり」と論ずるや、其「今日の勞働の結果として今日得る」と云ふ句は正しからずと信じ「余は慾求せられたる財貨が Clark 教授によりて述べられたるが如き條件の下に於ては事實に於て待つことなくして得らるゝことは否定せざるなり。然れども彼等は今日の勞働の結果として得らる

ゝにあらず。彼等が過去に迄互れる一連續の作業によりて豫め作られ居るが故なり。今日の勞働の得る所は完成財の現在の蓄積にあらずして將來に於ける或時期の蓄積の存續なり」(Quar. Jour. of Eco., Vol. XXII p. 46)と駁し以て今日得る所のA'は今日の勞働の結果にあらずして既往の勞働の結果なり。其れ故其結果を生ずるには一定期間の経過を必要とするものなることを斷言せり。即 Böhm-Bawerk も Clark の設けしが如き條件の下に於ては事實待つことなくして得ることは認めたるも、其は今日の勞働の結果にはあらず過去に於て行はれたる勞働の結果なりと主張するなり。茲に於て問題は一に物の同一性を無視して可なりや否やに懸れるなり。されど Clark の用語は Fetter の解するが如く「勞働に對して得たるものは其人の賃銀なり」と云ふ卑近なることを念入りに表はすものならば問題は自ら別個のものとならざるを得ざるなり。(完)